

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071501086
法人名	社会福祉法人 天光会
事業所名	天光園グループホーム
所在地	福岡県大牟田市大字宮崎1710番地3 (電話) 0944-58-2835

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	直方市知古1丁目6番地48号		
訪問調査日	平成 20 年 11 月 24 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 6 日

## 【情報提供項目より】(20年11月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 1 日
ユニット数	1 ユニット   利用定員数計 9 人
職員数	8 人   常勤 7人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	平屋 1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	16,500円	光熱費等
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金否)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	230 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円

### (4) 利用者の概要(11月24日現在)

登録人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0	要介護2	3		
要介護3	6	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 87.3 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	杉循環器科内科病院 永田整形外科病院 曾我病院 大田歯科病院 立石医院 安藤皮膚科医院 塩谷眼科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

天光園グループホームは母体法人の介護老人福祉施設の入り口にあるモダンな平屋の一ユニットのグループホームである。理念の中の「みんなと仲良く楽しめる暮らし」や「自分でやれる達成感の喜び」を実現するために、把握した生活暦等を活用した介護計画を実施している。今年度より安全な良い食材を使いたいと材料の購入を業者に委託したが、午前中を昼食の準備に使えることで入居者は生き生きと調理を行い、張り合いのある笑顔で味付けや調理方法を職員に伝授している。音楽療法が定着し、午後になると誰とはなしに歌を口ずさみ合唱が始まり、最近ではフルコーラス歌う入居者も多く、体調の変化が少なくなったと職員は感じている。ホーム行事に参加する家族も多く、隣の住民もお誘いして忘年会を開くなど、理念の「地域との交流を深め、外に開かれた暮らし」を実践している。ホーム行事ばかりでなく、母体法人のレクリエーションや行事に参加したり、地域住民が集うホーム隣の地域交流センターのリハビリ体操参加や、認知症に対する理解を深めてもらいたいと専門医を講師に招き研修会を行うなど相互交流ができており、地域の拠点としての役割も大きい。今後も、理念の「どんな時でも誇りや威厳のある暮らし」を実現するために、母体法人や地域交流センター等の社会資源の活用に期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価後、改善に向けた話し合いを行い、入居者や家族の意向を取り入れ、理念を反映させた介護計画を作成している。地域福祉権利擁護事業や成年後見制度のパンフレットを整備し、サービス担当者会議で家族に説明している。金銭出納帳の家族や職員の確認方法も改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は職員の異動で全員では取り組めず、計画作成担当者が中心になってまとめている。
	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
重点項目③	運営推進会議に関する規程を整備し、守秘義務等の同意書や委嘱状を交付している。保険者である大牟田市と情報を交換しながら、運営推進会議を開催している。外部評価やホームの運営について報告し、議事録を整備しているが、この半年間は職員の異動があり定期的に運営推進会議が開催されていない。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
重点項目④	家族の来訪時に近況を報告している。法人が年4回発行している「たより」にホームでの暮らしぶりを掲載し、全家族に送付している。ホームの玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書にホームや行政の苦情対応窓口を明記している。協力医療機関等で健康診断を支援し、検査結果は個人ファイルに添付している。入居者毎の金銭出納帳を整備している。職員の離職等は随時入居者に話しているが、家族には行事の折に伝えている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入を申し出ている。法人が運営する地域交流センターが隣接しており、地域の高齢者の核として、健康教室や認知症について専門医を講師に招き研修会を開催したり、情報発信や介護予防に共に取り組んでいる。近隣に在住する母体法人の退職者のサポートがあり、外出時は住民から挨拶の声をかけてくれるようになった。お隣の住人からはおやつや野菜等の差し入れがあり、ホームの行事にお誘いしている。学生の職場体験やホームヘルパー養成研修実習を受け入れ、ホームの機能を地域に還元している。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程やパンフレットに地域密着型サービスの方針である「家庭的な環境と地域住民との交流の下」を明記している。ホーム独自の理念をわかりやすく5ヶ条にまとめ、入居者や家族、訪問者が見やすい玄関入り口等に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は申し送りの際に理念を唱和し、ミーティングで日々のケアに理念が活かされているか確認し合っている。職員が定着しているので理念が実践しやすいが、管理者は今後理念の更なる実践のため定期的な地域交流会を検討している。理念に沿ったケアが実施できる様に具体的に介護計画が作成されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の加入を申し出ている。法人が運営する地域交流センターが隣接しており、地域の高齢者の交流の核として、健康教室や認知症について専門医を講師に招き研修会を開いたり、情報発信や介護予防に共に取り組んでいる。近隣に在住する母体法人の退職者の強力なサポートがあり、外出時は住民から声をかけてくれるまでになった。お隣の住民からおやつや野菜等の差し入れがあり、ホーム行事にお誘いしている。小・中・高生等の職場体験やホームヘルパー養成研修実習を受け入れ、地域にホームの機能を還元している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が中心となって取り組み、ミーティングで職員と共有している。前回の外部評価後、改善員に向けて話し合い、理念を反映させた介護計画の作成や地域福祉権利擁護事業のパンフレットの整備、金銭管理確認方法の改善、家族との連携など具体的に取り組んでいる。	○	評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組みサービスの質の向上に活用していただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関する規程を整備し、守秘義務等の同意書や委嘱状を交付している。保険者である大牟田市と情報交換しながら運営推進会議を開催している。外部評価の報告やホームの運営について話し合い議事録を整備しているが、この半年間は職員の異動があり定期的に運営推進会議が開催されていない。	○	運営推進会議規程を遵守し、2ヶ月毎の定期的な開催をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大牟田市長寿社会推進課より定期的にFAXが届き、家族会の開催や運営推進会議の内容について情報を交換している。大牟田市が企画した「運営推進会議意見交換会」に参加し、担当者で連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	地域福祉権利擁護事業の研修会は参加しているが、成年後見制度等に関する研修会に参加していない。成年後見制度を入居者や家族に周知するために制度の説明書やポスターをホームに掲示し、担当者会議などで家族に説明しているが、制度の活用はない。	○	職員が制度を理解しケアに望めるよう、年間研修計画に研修を位置づけホーム内外の研修に参加していただきたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に近況を報告している。法人が年4回発行している「天光園たより」にホームでの暮らしぶりを掲載し、全家族に送付している。協力医療機関等で健康診断を支援し、検査結果は個人ファイルに添付しているが、家族への説明を記録していない。入居者毎の金銭出納帳を整備している。職員の離職等は随時入居者に話しているが、家族には行事の折に伝えている。	○	健康状態を家族に理解していただく為にも、家族説明の記録を残していただきたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び公的機関の苦情担当窓口を明記し、ホーム内に掲示している。意見苦情箱はホーム玄関と法人の多目的ホールに設置している。大牟田市では家族会の開催を義務付けているが、開催には至っていない。行事に参加する家族も多く、その折に家族に意見を伺ったり、運営推進会議での家族の意見をホームの運営に活かしている。	○	以前、運営推進会議で家族会の設置を呼びかけているので、是非実現をお願いしたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は認知症の特性から、馴染みの関係作りの重要性を理解している。人事考課の運用で職員の離職を防止しているが、病気による離職や母体法人の新設事業所への転属のため、職員が異動している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用はハローワークを通じて行っている。業務契約書や就業規則・サービス規程は整備され、定期健康診断も実施している。入居者とのなじみの関係ができており、職員は休憩時間を特段にもうけていないことに不満は持っていない。人事考課の運用で、職員が能力を発揮し生き生きと働ける職場づくりや高齢者再雇用にも積極的に取組み、長年培われたキャリアを活かす取組みが継続している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	今年是人権研修会の参加ができなかった。大牟田市が作成した高齢者虐待防止マニュアルや身体拘束マニュアル、やむを得ない場合の身体拘束に関する同意書を整備している。	○	介護職員の人権学習は必須であるので、行政から配付されるパンフレット等を活用した研修や実施記録の整備が求められる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成しているが、職員の異動などで実施していない。新規採用職員は入居者と馴染み関係が構築できてから、夜勤業務に就いている。職員の悩みはベテラン職員や管理者が相談に応じている。	○	立案した研修計画に沿って、新人職員の育成や現任職員の研鑽の場を設けていただきたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会は加入していないが、大牟田市が企画した「あんしん介護相談意見会」や「運営推進会議意見会」に参加し、他グループホームと意見交換をしている。管理者が以前働いていたグループホームの交流から開始していく予定である。	○	同業者との交流で更なる研鑽を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者対応マニュアルを作成し、安心して入居できるよう取り組んでいる。併設の介護老人福祉施設のショートステイを利用し入居に到るケースが多く、見慣れた風景である為なじみやよくなっている。体験入居の仕組みを設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を1対1の人間として人権を尊重した対応をしている。入居者は食事の下ごしらえや配膳、洗濯物たたみなど生き生きと生活しており、職員は入居者から労いや励ましの言葉かけがあり、共に和やかな暮らしをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式で入居者のできることやできないこと、生活に対する意向、生活歴、職歴等をアセスメントしている。生活の中で思いや意向を反映した計画を立案し、実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画がチームで作れるように、日々の記録や申し送り、ミーティングの際に情報を共有し、入居者、家族の意見を取り入れ個別・具体的な計画が作成されている。担当者会議に家族の参加があり、計画書に家族、本人の署名捺印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎、また体調の変化に合わせて各入居者の心身状況をアセスメントし、計画を見直している。見直した介護計画は、入居者、家族に説明し同意を得ている。職員は気づいた入居者の変化を介護支援専門員に報告し、計画の変更に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人と合同の運動会や敬老会、ハンドベルの演奏会に参加し、地域住民や他施設の入所者との交流や気分転換を図る機会を作っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診や協力医療機関受診を支援し、健康を管理している。定期的な受診は、病状説明のことも含め家族に同行をお願いしている。受診状況は連絡帳で職員に周知し、随時家族に連絡しており、介護支援専門員が連絡の記録を整備している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に健康管理として医療機関との連携を明記している。運営推進会議で入居者の重度化や終末期の対応を議題にしたことはあるが、重度化や終末期のに向けた方針や話し合いの記録はない。	○	入居者の重度化や終末期に向けた方針の作成をお願いしたい。そして、ホームとしてできる事できないことを明確にし、できるだけ早い段階から本人、家族、かかりつけ医と話し合い、記録をお願いしたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する規程や個人情報の利用目的を明記した書面をホーム内に掲示し、入居者や家族に説明し同意を得ている。母体法人が主催した研修に参加し、ホーム全体で入居者のプライバシーの確保や丁寧な対応に取り組んでいる。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	東京センター方式で入居者の生活暦・職歴、日々の暮らしをアセスメントし、食事時間、起床・昼寝、就寝時間に柔軟に対応している。ほとんどの入居者がリビングで過ごすことに安らぎを感じているが、体調によっては自室で過ごす事もあり、ペースにあわせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物は今年度より中止し、安全な良い食材を業者から配達してもらうようにしている。買物に出かけないことで食事の下ごしらえなどに費やす時間が増え包丁が足りないくらいである。下げ膳やテーブル拭きなども入居者の能力に応じた支援をしている。職員も同じテーブルで同じ食事をしながら、食事のすすみ具合や食べこぼし、誤嚥等に配慮している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場は毎日、それ以外は隔日に、入居前の習慣に沿って午後から支援している。入浴拒否者には職員の言葉巧みな声かけや入浴日を変更等の工夫で入浴につなげている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	東京センター方式で生活暦・職歴等を詳細にアセスメントしている。下げ膳やテーブル拭き、食事の下ごしらえ、カレンダーの日めくり、洗濯物たたみ、衣類の修繕や縫い物等で役割づくりを支援している。以前母体法人で行っていた音楽療法が定着し、今では毎日午後の時間になると誰ともなく合唱が始まり、フルコーラス歌えるようになった入居者もいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画を重要事項説明書に明記し、お花見やドライブに出かけている。母体法人と協働で遠出の外出をしたり、ホーム単独で弁当持参の藤の花見に出かけたりしている。日ごろは散歩に出かけたり、菊づくりをしている近隣のお宅に伺うこともある。また、気分転換に隣接の介護老人福祉施設に出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害を職員は理解し、入居者の言動に応じて適切な声かけをしているが、防犯のため19時30分から翌朝7時まで玄関を施錠している。日中は玄関に鈴をつけて、外出傾向のある入居者の見守りをしている。外出傾向のある入居者が部屋のドアを壊して外出したことがあり、近隣へ声かけや見守りの協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルを整備し、隣接する母体法人とともに年2回の防災訓練を実施し、夜間避難訓練も実施予定である。災害に備え、消火器や懐中電灯、飲料水等を整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間メニューを作成している。入居者の嗜好を把握し、既往症に応じた水分・食事摂取を支援しているが、食事摂取量だけで水分摂取量の記載がない。毎月、体重を測定している。	○	母体法人の管理栄養士に摂取カロリーや栄養バランスの点検をお願いしてはいかがでしょうか。食事量や水分摂取量の記載の仕方を工夫し、全員が情報を共有できるようにお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から母体法人敷地まで手すりのあるスロープが設置され、車いす利用の入居者の移動を容易にしている。アプローチには季節の草花が植えられたプランターやウエルカムボードが置かれ、訪問しやすい雰囲気である。中庭の木々の成長も入居者を見守っているかの様で温かく感じられる。南向きのリビングは暖房なしでも暖かく、ロールカーテンで室温を管理している。対面式の厨房からはまな板の音や美味しそうな匂いが漂い、生活感に溢れている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室入り口にネームボードを設置し、居室の間違いを防止している。各居室のベットはレンタルであるが、洗面台が設置され、汚染した箇所は張替えができるカーペットが敷かれている。緊急コールの設置もある。馴染みの箆笥や写真、日常品の持ち込みがあり、居心地の良い居室作りがある。		